

五鈷掛の松（国上寺）

弘法大師が唐から帰朝の折、密教流布のため船中から投じた、独鈷・三鈷・五鈷のうち五鈷が国上寺の松に掛ったものという。国上山が天台から真言へ移るときのひとつの機縁を示すものである。

◇立て看板内容

弘法大師 五鈷掛の松

弘法大師が中国より帰国の途次三鈷と五鈷を投げられ、三鈷は高野山の松にかかり五鈷が当山のこの松にかかり真言道場になりました。

◇石碑（良寛の書）

国上の、大殿のまえの、一つ松、上つ枝は照る日にかくし、
中つ枝は鳥を住ましめ、しづ枝は甕にかかり、時じくぞ
霜は降れとも、時じくぞ、風は吹けれども、千早ふる神のみ代より、
ありけら可、やあやしき松ぞ国上の松は

